



Sabae Rotary Club

R I 第2650地区 2016-2017年度 鯖江ロータリークラブ



国際ロータリーのテーマ

人類に奉仕する
ロータリー

RI第2650地区のスローガン

夢を語り、現在を刷新
Review From the future and Renew



鯖江ロータリークラブ会長方針
老壮青 今、日々を大切に
「感謝で繋ぐ」

その為に...

会長 田村 康夫

第2765回
8/5(金)

8月第1例会 鯖江北RCとの合同例会

国際ロータリー第2650地区 鯖江商工会議所
4階大ホール
点鐘:12:30
ガバナー公式訪問
刀根 荘兵衛 様

8月第2例会 点鐘:12:30

卓話 元福井テレビ 解説委員 土山 弥一郎 様
テーマ 「人生、第3幕がおもしろい」

第2766回
8/12(金)

4つのテスト

出席率 93.7%

8/5(金)
第2765回
例会報告

鯖江商工会議所 4階大ホール

- ① 真実かどうか
- ② みんなに公平か
- ③ 好意と友情を深めるか
- ④ みんなのためになるかどうか

好意と友情の握手タイム



結婚祝い



野呂 和夫

誕生祝い



深見 泰和
桑原 重之
野呂 和夫

勤続表彰



田村 光雄
田中 敏幸
瀧ヶ花 秀晃
大橋 良史
帰山 明朗
孝久 治宏

開 会 点 鐘
四 っ の テ ス ト
国 歌 斉 唱
ロ - タ リ - ソ ン グ
好意と友情の握手タイム
会 長 の 時 間
幹 事 報 告 等
ガ バ ナ ー ア ド レ ス
閉 会 点 鐘

ロータリーソング



・君が代
・奉仕の理想
・手に手つないで
野中 敏昭
ソングリーダー

新入会員入会式



紹介者:田村会長
S44年5月17日生
47歳 榊原建設
6人家族・子供2人
榊原 広輝 さん

わからないなりに、今日は特別の日と思い、誠に光栄と感じている。今後ともご指導・ご鞭撻いただきながら、仲良く活動したいと思う。

ガバナー御一行様の紹介と会長の時間



田村 康夫 会長

ガバナー御一行様
紹介

第2650地区ガバナー 刀根 荘兵衛 様
" ガバナー補佐 木村 昌弘 様
" 幹事長 山本 等 様
" 副幹事長 中村 紀明 様
そして、本日入会される榊原広輝さんを紹介する。久しぶりの4階大ホールでの例会、こういう形で毎回できると良いと思う。

笹尾 北RC 会長

今日は、刀根ガバナー御一行をお迎えして、大変うれしく思っている。お話をじっくり聞かせていただきたいと思うのでよろしく願います。



幹事報告

鯖江RC 帰山 明朗 幹事

毎年恒例となっている、鯖江北RC様と当RCとの合同夜間例会を、今年度は鯖江RCがホストにて、9月9日(金)18:30から、会場は当クラブ岡本圭子会員の事業所「料亭天狗楼」にて開催。ご案内文書をご確認いただき、多くのご参加宜しく願います。

先ほど、入会式を終えた、新会員の榊原さんの委員会は親睦委員会に、家庭会合は第1班で、宜しく願います。

最後に本日の合同例会終了後に、ガバナー御一行様とともに記念写真を撮影する。その際に、椅子・テーブル等の移動も必要なので、どうか皆様のご協力をお願いする。

鯖江北RC 岩尾 顕治 幹事様

今日は、刀根ガバナー御一行様ようこそ。スケジュールだけ確認。来週は通常例会、その次が丹生高校の模擬面接となっているので、出席よろしく願います。

ここにBOX報告

1 刀根ガバナー御一行をお迎えして	ガバナー 刀根荘兵衛 様	1 田村 康夫	1 小部 隆充	1 野中 敏昭	1 木村 明	1 牧野 友美
2 新入会員榊原さんをお迎えして	" 補佐 木村 昌弘 様	123 帰山 明朗	1 園 幸雄	1 吉田 俊博	16 桑原 重之	1 小淵 洋治
3 勤続表彰を頂いて	幹事長 山本 等 様	14 窪田 健一	1 田中 敏幸	1 深見 泰和	1 孝久 治宏	1 清水 康弘
4 鯖江北RC様本日はよろしく願います	副幹事長 中村 紀明 様	23 大橋 良史	1 大島 恒彦	13 瀧ヶ花 秀晃	1 野呂 和夫	12 佐野 直美
5 やっしまつり参加ありがとうございました		15 酒井 芳則	1 幸道 森市	1 橋本 政宣	1 下村 義孝	1 岡本 圭子
6 誕生祝を頂いて						1 瀧谷 えみこ

小計 ¥ 99,000 累計 ¥ 233,000

ガバナーアドレス

第2650地区
ガバナー 刀根 莊兵衛 様

ロータリーは、ある一人のアメリカ人のビジョンによって始まった。その人の名前は、ポール・ハリス。シカゴで弁護士として働いていたハリスが、世界初のロータリークラブ(シカゴロータリークラブ)を設立したのは、1905年2月23日。

ハリスは、多様な職業を持つ人びとが集まり、アイデアを交わし、生涯にわたる友情を培うことのできる場として、ロータリーを設立した。「ロータリー」という名は、当時、各メンバーの職場を持ちまわりでミーティング場所としていたことに由来する。このハリスのビジョンから始まったロータリーは、約110年を経て、現在200以上の国と地域に約35,000のクラブがあり、120万人以上の会員に成長している。また、日本では会員数は減少傾向にあるものの、現在約9万人の会員、約2,400のクラブに拡大、2020年には日本のロータリー誕生100年を祝おうとしている。

しかし、この素晴らしいロータリー運動も21世紀を迎えようとしていた頃から、少しずつ変化の兆しが見え始めてきた。特にロータリー先進国と言われているアメリカをはじめ日本、カナダなどで会員数が減少し始め、またその活動も次第に人道的なボランティア活動が強調されるようになってきた。さらに、その変化に時を合わせるように、会員資格、職業分類制度、例会の意義と言った初期のロータリーの基本にまでも大きく変化してきた。

ロータリーが変わった、魅力がなくなったと嘆くベテランのロータリアンの声が聞こえてくる。しかし、ロータリーの仕事をするのはクラブとその会員であってガバナーでもRI理事でもRI会長でもない。これはロータリーの変わらぬ原則であり、だから「You are Rotary」「あなたがロータリー」(1960-61年度RI会長J.E. MacLaughlin)なのだ。

『ロータリーは奉仕団体だ』とよく言われる。しかし、それは正確ではない。正確には、ロータリーは奉仕する人の団体。言い換えれば、ロータリーは奉仕団体ではなく、奉仕する人の団体、奉仕する人を育てる団体だと言える。

そして、ロータリーを学び、心が高められた人たちが、世のため人のために何か奉仕(サービス)をした結果、世界理解と平和に貢献していくということになる。

また、元来ロータリーの奉仕理念は、高度な哲学や宗教から出発したものではなく、人間が本来生まれながらに心の奥に持っている目に見えない精神、他人に役立ちたいという心を発掘し、育てていくことなのだ。これがロータリーの生命力であり、また原点でもある。ウィリアム・ロビンズ(William R. Robbins) 1974-75年度RI会長は“Rotary's first job is to build men”『ロータリーの第一の仕事は人を作ること』と述べている。

私はこのロータリーの根本理念は変わることがないと思うし、また変えてはいけぬものだと思える。このような原点に立って、私たちはあるべきロータリーの姿を見つめ直し、いまを刷新“Renew”する必要があるのではないだろうか。

ドイツの哲学者ハイデガーは「未来が過去を決定し、現在を生成する」という言葉を残している。野中郁次郎氏によれば、その意味するところは、過去が今を決めるのではなく、未来というものを置くことによって過去が意味づけられ、今が決まる。未来によって主導されてこそ、今というときが日々、生き生きと刻まれるとのことだ。「自分がどうありたいのか」「どうありうるのか」という未来の可能性が見えて始めて、過去に蓄積された知識やノ

ウハウは意味を持つようになり、再構築される。そして、未来と過去が一体となったとき、現在(今、ここ=here and now)の刻一刻の生き方が分かるということになるのだろう。

ドラッカーは、どのような組織であっても「私たちはどうありたいのか、どうありうるのか、何でもって憶えられたいか」を常に考えなければならぬと述べている。

経営の神様と言われる松下幸之助翁(大阪RC)も人間のあらゆる営みは『経営』なのだと言われている。そして「経営」というものの本来の意味は、現在の延長線上において未来を考えるのではなく、将来のあるべき姿を思い描き、それを実現していくすべての行動を指して言うのであり、経営というものがなければ、国であれ組織はやがて行き詰まってしまうと、四十年以上前から警鐘を鳴らし続けていた。

ところで、ロータリーがミレニアムを迎えた頃、佐藤千壽PDGはこれからのロータリー100年を占って三つの道を挙げられた。



その第一は古典的な理想論。つまり昔ながらの古き良き時代に戻る。第二の道が、二週間に一度の例会、他の奉仕活動団体などの相互乗り入れや合併。第三の道が、RIBIのように各地域が大幅な自由裁量権を持つ連邦組織としてのRI。このような三つの道が示された。今後RIがこの三つの道の中から一つを選択するのか、全く新しい道に進むのかは分からないが、私たち自身がこれからの日本のロータリーをどうすべきなのか、私たちの地区は、それぞれのクラブはどうあるべきかを真剣に考えなければならぬ時期に来ているのだと思う。

もうすぐ100年を迎えようとしている日本ロータリー。私たちはもう一度ロータリーのあるべき姿を思い描き、夢を語り、未来を見つめ、高い理想をそこに求め、そこからいま(現在)を創造する、刷新すること“Renew”が、いま求められている。

「最初に夢がなければ、何も生まれない」(“Nothing happens unless first a dream” カール・サンドバーグ作家・詩人)の言葉。

しかし、夢というものは人から与えられるものではないし、自分で持つだけでも広がらない。人とかがかわっていく中で、はじめて夢が広がり、深まって、大きくなっていく。(日本初の全盲の弁護士 竹下義樹氏)

2016-17年度はロータリーの未来を皆様と共に考える一年にできればと想い、地区のスローガンを次のようにさせて戴いた。

クラブの皆さんと一緒に膝を突き合わせ夢を語り合い、そして、勇気と想像力*で夢の実現にむけて一歩を踏み出してみようではありませんか。

2016-2017年度第2650地区スローガン

“夢を語り、現在いまを刷新”

Review from the future and Renew

来し方を顧み、行く先を見つめ、理想の未来を思い描き、今ここ(現在)を見直し、刷新しよう — 素晴らしい未来を創るために

会長・幹事様にとりまして思い出に残る素晴らしい一年となることを祈りつつ、新しい夢を夢見ながら“To dream a new dream”、一緒にロータリーの夢を追いつつ。

*喜劇王チャールズ・チャップリンは、ライムライトの映画の中で、「人生に必要なもの、それは勇気と想像力と少しのお金」という心の残る言葉を残している。

(人生は恐れなければ、とても素晴らしいものなんだよ。人生に必要なもの。それは勇気と想像力、そして少しのお金だ。)